皆が、フォーメーションを組んで、走る。
獲物にたかるオオカミの様に、
ボールを取り合いで、
走る黒いシルエットが見える。

その様子を見ながら、
僕は、ゴールの前で、つっ立って、
西の赤い太陽が　いつ沈むかと、眺める。

皆が、砂ぼこり舞う運動場いっぱい走りまわる。

目には動く人が見えるが、
耳には何も聞こえない。

静かである。

ただ、時々、少数の人が、かけ声を出すだけ。

「なぜ、こんなつらい事を
　わざわざ、しなきゃならんのか。
　おもしろくない。
　やめたろか。」

と言う気持ちになる。

しかし、「やめたあ。」と言う元気もない。

思いに沈む。

91　地獄の後は天国や・・・・・・・・・・・・・・404

Candy
in the Heart
408

萩原良昭